

人生の寄り道となる余白の時間を学ぶ場、フォルケホイスコーレがモデルの“人生の学校”づくりを2020年春から東川町でスタート！

安井 早紀(やすい さき)さん

(株)Compath 共同代表

1990年生まれ神奈川県出身。慶應義塾大学在学中は“教室から世界を変える”NPO法人 Teach For Japan勤務。卒業後の㈱リクルートでは地方と海外を舞台にした大学生向け次世代リーダー育成プログラムのプロジェクトリーダーを担当。2018年、島根に移住し地域・教育魅力化プラットフォームに参画。「地域みらい留学」の事業づくりに従事。2020年4月にパートナーの遠又香さんと共にCompathを設立。同年7月より東川町に移住。

安井早紀さん(左)と共同代表の遠又香さん(右)

北海道に移住(U・I・Jターン)して、新たな取り組みを行う輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーかとうけいこさん。10回目となる今回は、東川町でまち丸ごとを活用した人生の学校を作ろうと始動した安井早紀さんです。

フォルケホイスコーレとの出会いを教えてください

2017年秋にパートナーの遠又と、デンマークのフォルケホイスコーレ(以下ホイスコーレと省略)を訪ねました。ホイスコーレは、19世紀にデンマークの農村を中心に発達した社会教育施設です。理念的なものを提唱したグルントヴィは、人間同士の“生きた言葉”での対話こそが一番の学びになると説いたそうです。

自分たちの手で国は創り直せると信じ“人間の生き様と言葉”に一番の価値をおいた人がつくった「民衆のための学校」と言われています。

なぜホイスコーレを訪ねたのですか

社会人4年目の秋に訪ねたきっかけの一つは、すごく険しい顔をして働いていることに気付いたから。削られているな、私。こんな人生でいいのかなと考えました。そして、気分転換の旅だけどそこに行く理由や目的は欲しいな。じゃあ学生時代から純粋に好きだった教育に絡めた旅。もう一つ、幸せについて考えたかったので、世界幸福度調査2位(日本62位)のデンマークに行こうかな?こんな感じでした。

* フォルケホイスコーレとは

ホイスコーレは、原則17歳半以上の社会人が通う全寮制の学校。生徒も先生も同じ学校内に暮らし、年齢や国籍が異なる仲間と共に同じ時間を過ごす。対話を基本に個性を尊重。「自分が何者であるのか」を知り、社会は多様な他者との関係で成り立っていることを体感していく。自然との共存を大切にするため、都会から遠く離れた地にほとんどのホイスコーレがある。現在デンマークに70校で北欧に広がる。入学試験、試験、成績表、終了証・卒業証書もない。外国人の場合、比較的高いレベルの英語力もしくは現地語能力が求められる。(北欧留学ナビ<https://www.folkehojskole.jp/>を参考に筆者まとめ)

ホイスコーレで感じたこと、思い立ったことを教えてください

滞在を通して、“人は一人ひとり生まれてきた意義を持っている”ことを再確認し、“ちょっと立ち止まって人生について考えてよい場”がホイスコーレだと感じました。学ぶ内容は教養に近く、余白がたっぷり。様々な人の人生が交差して、誰かの物語が誰かの学びになっているのが印象的でした。

実は、ホイスコーレの校長にアポイントを取るために一つだけウソをつきました。「日本で学校をつくらうとしている者なので、会ってください！」ってデンマーク語で書いて、いろいろなサイトのinfoからメールを直接送りました。そんな予定ないのに（笑）。でも先方は多分、日本から随分と志が高い人たちが来ると楽しみに待っていらっしやったのかも。「私はこんな願いを込めて学校をつくっている。君たちはどんな学校をつくりたいの？」という問いをいただきました。その時すでに現地で素晴らしい教育に触れていた私たちは「なんで日本じゃホイスコーレをつくれな^いだろう？」と、気づけば空き教室に7時間くらい籠^{こも}り、二人で事業計画の第一稿をつくっていました。ここがスタートです。

お話の中に「民主主義」というワードが多く出てきますね

はい。そうだと思います。ホイスコーレでの対話の中で、自分がこれまで日本の学校で習ってきたつもり「民主主義＝投票」の概念が全く違うことに気が付きました。デンマークでは民主主義が普通の人の暮らしの中、根本にあり当たり前のこととして理解されています。学生たちは、自分の気持ちを尊重すること、そして他者の気持ちも尊重して納得解を出すために、バラバラな意見を統合させる民主主義的な対話の方法を身に付けていました。違和感があったら自分の気持ちを流さずに伝える。そこにいる全員が納得いくまで対話を続ける。こうした彼らの当たり前は、「デンマーク社会ってちょっと面倒くさいなあ」と感じることも

ありました。でも日本はデンマークに比べ、面倒くさくない代わりに、違和感に蓋をして自分らしく生きる権利を奪われているようにも感じています。

なぜホイスコーレを東川町につくったのですか

物理的に日常を離れて、自分や自分を取り巻く環境について探求するためには、都会からのある程度の距離が必要です。気持ちの良い場所で、自分の哲学を持って暮らしている方々がたくさんいる場所がいいなあと思っていました。そういう方たちと一緒に学校づくりをしたいからです。その意味で、ひよんなきっかけで紹介してもらった東川町で養鶏業を営む、新田由憲さん・みゆきさんご夫妻の存在は大きかったです。お二人に会いたいと東川を訪ね、親しくなり、他にも大勢いらっしやる魅力的な人たちと私たちを繋^{つな}げてもらい、「なんだこの町は！」と心が踊ってしまいました。それがこの場所でホイスコーレをつくってみたい。そのために移住しようと決めたきっかけです。

今後についてお聞かせください

デンマークと日本は文化や社会制度が違います。例えば、ホイスコーレの日数はどれくらいが適当かなど、日本に合う形をいろいろ模索しながら、学校づくりをしていきたいと考えています。また、その土地らしさを活かした学校をつくれたらと思っているので、東川町について、北海道についてもっといろいろと知るために各地を訪ねてみたいと思っています。最終的には、いつかはデンマークのような全寮制で誰でも好きなタイミングで、人生の岐路に立ち寄れるような学び舎をつくりたいです。

（2020年9月取材）

インタビュー後記

安井さんと遠又さんのホイスコーレの活動を知ったのが7月末日。すぐにMessengerでのやり取りが始まりました。安井さんと対話をしたいと東京の友人と共に東川のオフィス兼ご自宅を訪ねたのが9月末、「7日間の秋のショートコース」終了直後でした。試行錯誤を重ねながら挑戦する素晴らしい取り組みを、北海道や日本の皆さんに伝えなければと強く思い、本稿となりました。

かとう けいこ（株）まちづくり観光デザインセンター代表